

127 伝染性コリーザ

担当	検査チャート
家畜保健衛生所	<pre> graph TD A["(1) 疫学調査"] --> B["(2) 臨床検査"] A --> C["(3) 剖検 (死亡鶏)"] B --> C C --> D["(4) 簡易細菌検査 (鼻汁、眼窩下 洞内滲出液)"] C --> E["(9) 病理組織検査"] D --> F["(5) PCR <直接鏡検>"] F --> G["(6) 細菌培養試験 <分離培養>"] G --> H["(7) 細菌性状分析"] H --> I["(+)"] H --> J["(-)"] I --> K["(8) 血清型別"] J --> E E --> L["(+)"] E --> M["(-)"] </pre>
病性鑑定施設	<p>(5) PCR</p> <p>(6) 細菌培養試験</p> <p>(7) 細菌性状分析</p> <p>(8) 血清型別</p> <p>(9) 病理組織検査</p>
判定・結果	<p>(+) (-) (+) (-)</p>
最終判定	<p>疫学調査、臨床検査の結果を基に、細菌培養試験、病理組織検査等の結果を併せて総合的に判断する。</p>
その他	<p>抗生物質を用いて治療した材料は細菌検査には適さない。</p>

→類似疾病検査

- ① 120 鶏マイコプラズマ病
- ② 109 高病原性鳥インフルエンザ・低病原性鳥インフルエンザ・鳥インフルエンザ
- ③ 頭部腫脹症候群
- ④ 113 鶏痘
- ⑤ 115 伝染性気管支炎
- ⑥ 116 伝染性喉頭気管炎
- ⑦ 188 ビタミン A 欠乏症
- ⑧ 緑膿菌感染症

○ 病原体: *Avibacterium (Haemophilus) paragallinarum*

(1) 疫学調査

- ① 鼻汁の漏出が主症状で、飲水や飼料を介して急速に伝播する。
- ② 春から梅雨期や秋から春にかけて好発する。
- ③ 中びなや産卵開始直前の鶏に発生が多い(若齢鶏は比較的抵抗性)。
- ④ 常在化する傾向がある。
- ⑤ 発病率は高いが、死亡率は通常低い。混合感染で重篤化する。
- ⑥ ワクチン接種をしていない鶏群、あるいはワクチンの血清型が感染株の血清型と一致しない鶏群に発生

抹し、グラム染色・メチレンブルー染色により両端濃染性グラム陰性桿菌を確認する。

(5) P C R

PCR 法によっても *A(H). paragallinarum* の検出が可能である¹⁾。

(6) 細菌培養試験(分離培養)

- ① 直接鏡検に用いた材料を血液寒天に塗抹する。これに交差させて予め NAD 産生性を確認した *S. epidermidis* あるいは *S. hyicus* をフィーダーとして画線塗抹する。
37℃で24～48時間5%炭酸ガス培養をする。
- ② 非溶血性の露滴状のコロニーを形成し、衛星現象を示す。

(2) 臨床検査

- ① 水様性から粘液性の鼻汁の漏出
- ② 顔面の浮腫性の腫脹と流涙
- ③ 特に雄で肉垂が腫脹することがある。
- ④ 下痢または緑便をすることがあり、餌と水の消費が減少する。
- ⑤ ゴロゴロと異常呼吸音が出ることがある。
- ⑥ 産卵群では産卵率が低下または停止、育成鶏では不良鶏が増加

(7) 細菌性状分析

(分離菌の性状)

菌種	病原性	カタラーゼ	V因子要求	発育気相	黄色色素	ガラクトース	トレハロース
<i>A(H). paragallinarum</i>	+	-	+	5%CO ₂	-	-	-
<i>A(H). avium</i>	-	+強	+	好気	+/-	+	+

(3) 剖 検

- ① 鼻腔と眼窩下洞内に漿液ないし粘液の貯留
- ② カタル性結膜炎もよくみられる。
- ③ 肺炎や気嚢炎は希
- ④ 卵墜性の腹膜炎をみることがある。

(8) 血清型別

凝集反応または HI 反応で A、B、C の 3 型に型別される。

(4) 簡易細菌検査(直接鏡検)

発病 3 日以内の急性期の鶏 2～3 羽から滅菌綿棒で採材する。

鼻汁、眼窩下洞内の滲出液をスライドガラスに塗

(9) 病理組織検査

- ① 眼窩下洞粘膜の上皮細胞変性・腫大
- ② 粘膜下織の水腫と偽好酸球浸潤

その他:

(参考)

疫学調査・臨床検査で本病の特徴的な所見を認める場合、本病と診断できる(簡易診断)。確定診断は原因菌の分離培養と性状分析を行う。

急性経過をたどる場合が多く抗体検査の診断的意義は低い。市販の抗体検出を目的とした診断用赤血球凝集抗原(HI 反応用)は、主にワクチン接種後の免疫応答の判定に用いられる。

(参考文献)

- ・加藤和好: 鶏病診断(堀内貞治編). 259-278、家の光協会 (1982).
- ・久米勝巳: 鳥の病気(鶏病研究会編)、第 3 版. 78-81 (1999).
- ・Blackall, P.J., et al. In: Diseases of Poultry (Saif, Y.M., et al. eds.), 11th ed. 691-704, Iowa State Press, Iowa (2003).
- ・Blackall, P.J.: Clin. Microb. Rev. 12, 627-632 (1999).
- 1) Chen, X.: Avian Dis. 40, 398-407 (1996).